

会 議 記 録

政策企画局 まちづくり協働課

開催日	平成 21 年 5 月 28 日(木)	開催時刻	14 時 00 分から 16 時 15 分
会議名	上田城南地域協議会(平成 21 年度第 2 回)		
出席者	<p>田中明会長、石坂副会長、荒木委員、石井委員、岩木委員、木内委員、清水委員、竹内委員、竹田委員、中村委員、西村委員、宮崎昭子委員、宮崎勝義委員、宮島委員、山浦正嗣委員</p> <p>(欠席委員)石黒委員、岡村委員、金井委員、西川委員、山浦健太郎委員</p> <p>(事務局)山崎まちづくり協働課地域振興政策幹、小宮山まちづくり協働課課長補佐、堀内まちづくり協働課主査</p> <p>(説明者)伊藤交流・文化施設建設準備室長</p>		
<p>会議次第</p> <p>1 開会(山崎まちづくり協働課地域振興政策幹)</p> <p>2 会長あいさつ</p> <p>上田市は、地域自治に関してや地域づくりのスタンスについて、いろいろな角度から考え始めている。また、自治会の組織も、大きく機能している。上田市では、自治基本条例について検討している。今回より出席することになった。まちづくりを進めていく中で、地域協議会が大変重いものを背負わされているということを、痛感した。地域に対する情熱を持ちつつ、冷静に議論を進めていただき今後取組んでいきたいと思う。</p> <p>3 新委員あいさつ</p> <p>清水委員</p> <p>4 会議事項</p> <p>〔報告説明事項〕</p> <p>(1) J T 開発地における交流・文化施設のありかたに関する中間報告について</p> <p>「J T 開発地における交流・文化施設のありかた中間報告」より室長から説明</p> <p>【質疑応答】</p> <p>(委員) 周囲の交通状況や道路関係が重要になってくると思うが、検討はされているのか。</p> <p>(室長) 現在の上田駅周辺の道路整備だが、J T 開発地の辺りでは工事に着手している部分もある。J T 開発地については東西南北に新しい道路ができる。これについては J T 主体の土地区画整備事業によって基盤整備が進められている。また、公共地区予定地の横(南側)の堤防道路は、上田橋から古舟橋先まで(上田中島</p>			

線) 道路拡幅を行う計画になっている。JT 開発地の区間に関しては、本年度完成予定となっており、道路の幅員が 10.25 メートルとなっている。さらに、商業地区北側のしなの鉄道沿いの現道部分の整備(南天神町坂下線)は、既に行われてきている。このほか、JT 開発地と上田城跡公園を直接結ぶ道路が新設される。この道路は新幹線の高架橋の下を抜けるなど上田城址公園の駐車場に近くに抜けるという構想があり、新設される事になっている。まだ仮称だが、櫓下泉平線ということで、平成 23 年度を目標に整備が進められていく計画だ。主な JT 開発地の周辺道路整備工事を行いながら、渋滞緩和に向けての対応を今から準備させていただいている。

(委員) 上田橋からガード下の道路は広がらないのか。

(室長) JT 開発地内には、南北と東西に渡る道路ができる。東西の道路が、上田駅の南口から出てきている道路と直線で結ばれる事になっていて、その周辺の整備もこれから進められていく。また、ガード下の道路は十分対応できる整備が行われる。また、川西の方から上田橋へ抜けていく道路、主要地方道長野上田線という名称の道路があり、北天神町の古吉町線が平成 26 年度に向けて一部拡幅をされていく計画がある。JT 開発地周囲の道路だけでなく、周辺の道路整備計画も合わせて進めながら、それらの対応が図られていくものと思う。

(委員) 入り口の右側にビルが残っている。そちらの交渉はどうなったのか。

(室長) 土地区画整備事業については、都市建設部が窓口になっており、詳細についてはわからない。その建物がどうなるのかについては確認しないとわからない。

(委員) 交渉は継続中という解釈でいいか。

(室長) 準備室のほうで直接対応しているわけではないので、確認しないとお答えできない。

(委員) 信州らしさ上田らしさという特長について、検討委員会で検討されているのか。また、協議会として、どのようなポジションでなんらかを考えていくのかお聞きしたい。

(室長) 検討委員会でも上田らしさについての意見は出されている。具体的にはまだ決まっていないが、今回の計画の中では美術館も併せもつことが考えられている。現在、山本鼎記念館がある。山本鼎の農民美術運動、自由画教育運動など、近代版画の父といわれたような方を輩出している地域であり、また石井鶴三といった美術家もいる。今まで上田が育んできた文化と歴史・芸術、その精神をこの機能の中にしっかり位置づけていきたいと考えている。また今回の JT 開発地の場所が、上田駅から至近距離にあり、清流の千曲川があり、景観については上田城が眺められ、立地条件が良い。景観にあわせて施設整備を進めていくことが、上田らしさにつながるのではないかとのご意見をいただいている。特徴という点で、いろいろなご意見も出されているが、まだ不十分である。中間報告の段階であり、いまご指摘いただいたことも含め、市民の皆さん方の様々なご意見も踏まえて、最終報告に向けていきたい。

(事務局) 地域協議会はこれからの意見聴取ということだが、中間報告として説明をさせていただいたということで、今後、建設準備室のほうと詰めながら意見をお聞きしていきたいと思っている。

(委員) 維持・管理費を計算すると、年間 352,000,000 円という金額になるが、上田市の財政規模で大丈夫なのか。大ホールの席数だが、1500～1700 席という数値が出ているが、多いのではないか。理由としては、現在の市民会館の年間使用回数が、10 回に満たないと認識している。この状況で席数が必要なのかどうか。座席を減らす事によって建設費や維持管理費も減少し、コンパクトにできるのではないか。

(室長) 現在の座席数は 1,330 席となっている。平成 19 年度においてはホールで行われた催しは 132 回になる。満席になったといわれるものは、平成 18 年度～平成 20 年度までに概ね年 4 回程度という状況だ。昨年度に関しては、23 回ほど 1,000 人以上の方々を利用されている。老朽化し機能的にも不十分なものでありながら、これだけ利用されている。新しい交流・文化施設ができることで、一段と利活用が進んでいくと考えている。維持管理費の面で、現在、座席数も含めて規模・機能を十分に詰めている段階ではないが、見込みという考え方では 340,000,000 円程度(現施設の運営・管理経費を除く)ということである。市の財政負担をお願いしないといけない。これまでの市の文化振興費の割合は、歳出総額のおよそ 1.0%～1.3%位で推移をしてきた経過がある。新しくできることで、維持管理費は、平成 26 年度～平成 27 年度にかけて 2.3%～2.5%くらいになるだろうと見込んでいる。歳出の中で、文化芸術にかける事業費が約 1%増えていくが、全体の歳出予算の中のとりわけ医療や福祉に関しては現状維持や充実できるような取り組みを進めていかななくてはいけないと思っている。普通建設費の部分で、合併に伴い、いろいろな整備が進められてきているが、交流・文化施設ができる頃には、課題である施設整備等が終了していくものと考えられる。普通建設費の部分をごちらに少し回し、対応させていただければと思っている。

(委員) J T 開発地全体の統一性は考えているのか。

(室長) 環境にやさしい取り組みが、J T 開発地全体に進んでいければいいと願っている。事業者に対しても、環境や周辺の景観を考えて整備が進められていくものと考えている。交流・文化施設においても、景観や周囲の状況をみながら慎重に進めていく必要がある。

運営・管理にあたっては、エリア・マネジメントという考え方が提案されている。これまでは施設の管理者が企画をして事業の展開をし、それぞれの役割がそれぞれのところで事業展開をしているということが一般的だ。しかし、中心市街地の活性化、まち全体が発展できるように、J T 開発地を中心としながら全体を一体のものとして捉え、情報交換をしながら展開できるような方策を展望している。具体的な方策まではないが、今後連絡協議会のような組織ができ、様々な情報交換をしながら協力し合っていければと思う。延いては市全体の発展につな

がることをキーワードにおきながら、進めていきたいと考えている。

(会長) 他施設との役割分担のところは上田創造館が載っている。今後、手入れをするとか機能のアップなど、考えているのか。

(室長) 今回の交流・文化施設については上田市全体、さらにこの周辺地域の集客を想定しての施設として位置づけをしていきたいと中間報告では述べられている。既存施設も今後大いに利活用して、発信していかななくてはいけない。上田創造館は上田地域広域連合が所管している施設であり、上田広域の学習・発表の拠点としての利用の仕方が考えられると思う。上田文化会館・丸子のセレスホールは中規模なホールにあたる。信州国際音楽村のホール「こだま」は300席という小ホールになるわけで、各ホールの規模に応じた特徴を大いに活かしていければと考えている。

〔協議事項〕

(1) わがまち魅力アップ応援事業の再募集と広報掲載予定記事について (事務局から)

- ・資料「平成21年度『わがまち魅力アップ応援事業』追加募集のおしらせ」により事務局から説明
- ・上田広報6月1日号のわがまち魅力アップ応援事業の掲載記事について

【主な質疑等】

(委員) 応援事業を審査し、採択するわけだが、採択された事業を見学し、どのような事業だったか知りたい。わかっている範囲でイベントの予定など情報提供をして欲しい。

(事務局) 21年度の事業については、前回10事業を選んで開催の紹介をした。自治会での事業では、市民の皆さんを全員呼んで行うような事業ではなく、自治会の中での活動も多いので、すべての事業に対する紹介はしてこなかった。今後検討し、ホームページでの掲載や、協議会で発表し、月単位でご報告できたらと考えている。20年度の事業については、全ての事業について冊子を作る予定になっている。

(事務局) 提案された事業に対していつイベントがあるか、事務局の方に報告義務がつけられていなかった。個々のイベントについて、今後事業者に報告の義務をルール化して新年度からスタートしていきたいと思っている。公民館や地域自治センターを通じて、何かの方法で皆さんに周知していただいて、多くの皆さんに参加していただく方法を考えていきたいと思う。

(会長) この事業を始めて2年たつ。自治会や団体の皆さんの関心が、高まってきた。今後、報告等きちんとしたスタイルが整うと思う。合わせて、イベントの予定が事前に知らされるといいと思う。

(2) 分科会からの報告、提案について

第四分科会 ~地域で子どもを育てるまちづくり~

【報告要旨】

- ・長野市で保育園の民営化をしているのではないかとご質問で、長野市役所のほうへ問い合わせたところ、民営化はまだ実施していないとのこと。4つの園の業務委託をして、まずスタートをしている。
- ・上田市内の保育園には、自由選択性でどこでも入園できるということになっている。ただし、定員の問題があるので、すべての希望に添えるわけではない。
- ・障害者の入園についても、原則としてすべて入園可能だということだった。障害の級によっては、社会保育士の資格を持った方がいないとケアができない場合もあり、園によって差が出ている。
- ・昨年の10月に保育検討委員会が立ち上がった。17名の委員の皆さんで検討会を行っている。
- ・前回子ども未来部の保育課の皆さんにご説明いただいたなかで、保育園の建替について、建設及び運営に当たっては、地域としては保護者の皆さんの意見を聞きながら、進めていきたい。
- ・分科会で意見をまとめて意見書を提出できるようにしたい。

委員さんからの報告・提案

【報告・提案要旨】

- ・中央地域協議会 第二分科会の駒ヶ根市「生ごみ堆肥化施設」の視察に同行させていただいた報告等。
- ・分科会の前後に全体会を行い、他の分科会への提案・情報提供・複数分科会の連携など、話し合う機会を作ってはどうか。 (対応済)
- ・全体会で、ごみ処理施設の問題や自治基本条例について勉強をしてはどうか。
- ・2年目に入るが、情報の共有化が図られていない。希望としては3ヶ月に1度くらい、中間報告を実施したほうが各分科会としても説明がしやすい。 (実行済)
- ・城南地域だけでなく、他地域とも共同で協議できるといいと思う。(検討)
- ・9つの地域協議会で、どのような分科会があるか、項目だけでもいいので教えて欲しい。共通のものがあれば、情報を共有し、協力できる。(別紙参照)

(3) 次回会議開催について

平成 21 年 6 月 15 日(月) 開催予定

閉 会